HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	芒亭書屋談叢
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 89
Issue Date	1935-12-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77670
Type	article
File Information	A018_02_03all_Part26.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

各務時報

第八十九號

岐阜高等農林學校々友會

昭和十年十二月二十日發行

（凜眞寮記念祭・餅投げ）

芒亭書屋談叢

僕が如何に丈草を愛し「幻の庵」を讀みたいと熱望して居たか君はよく知つて居る。此本を得たいと思つてから將に十年になる。今年の秋博多の或る小さな古本屋の店頭に此本を見出した時僕は如何に狂喜した事か。これは今年の大きな收穫の一つである。

だが君、僕は其次に何を經驗したと思ふか。僕が「幻の庵」をむさぼる樣に讀んだ事は勿論だ。そして僕が最後に得たものは、——大いなる失望であつた。僕は大きな夢の一つを失つたんだ。

今年も愈々暮れになつたが、昔の人ぢやないが、矢張り歳の暮になると過去一年の事を追憶して見たくなるものだ。此一年の間に何を學び何を得たか。そして何を失つたか。

僕は此の歳の暮に、此一年の間に失つた夢の一つ一つを思ひ浮べて、微かな哀愁を覺えて居る。大きな夢、小さな夢。年をとる事は、つまり夢を失つて行く事なんだ。貘と云ふ動物は、夢を食ふと云ふぢやないか。「和漢三才圖會」で見ると、大體に熊の樣な形狀をして居る。食ふのは主として惡夢らしい。だから其形を畫けば邪氣を避くと云はれて居る。さうだ、貘に食はせたい夢も澤山にある。惡夢を食ふ貘は抑も夢なんだが、此夢は人間の永遠の夢の一つかも知れぬ。只恐れるのは、貘が間違へて善い夢を食つて居るのでないかと云ふ事だ。

年でも明けたら、心氣一新、何かすばらしい夢でもみようぢやないか。と云ふのが本年掉尾の大きな夢だよい年を迎へ給へ。

（芒　亭）